

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100144		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム いしなり		
所在地	神埼郡吉野ヶ里町石動3291番地1		
自己評価作成日	平成30年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年11月15日	外部評価確定日	平成30年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームのホールからの風景は南方に広いベランダがあり東西側には広い窓があり、季節の山々や畑、田園が見渡せる自然豊かな場所に立地しています。小さな畑ですが季節の野菜も収穫でき、食卓にも並べられます。地域との交流を大切にしており、クリーンデイ参加を始めグラウンドゴルフ、納涼祭、敬老会、防災訓練など地域との交流ができており、近所の方々の野菜の差し入れやバーベキューなどのお誘いもあり利用者様が顔馴染みになり、地域資源としても嬉しく思います。また、法人内のデイサービスでの音楽リハビリ、機能訓練への参加や小規模多機能でのカラオケ会参加にも喜ばれていると思います。また、地域への毎日の買い物や外食、毎月の行事にも参加され、外に出る機会が多いとご家族様にも喜ばれています。今後もよりよい自立支援をスタッフ全員で目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

平成15年に自然豊かな山里の地に開設され、「最後までその人らしいあり方をめざす」「自然からの回復力を得る」「利用者の本来の力やあり方を大切にする」「地域の一員として暮らすことをめざす」を理念としている事業所である。その理念を実現するために、「利用者様中心の介護をめざし、押しつけの介護でなく利用者様一人ひとりの生活リズムを大事にする」ことを行動目標として、全職員が同じ方向を向いて利用者の支援に臨んでいる。開設当初から家庭的な温もりと共に地域との交流が積極的に行われており、地域にとけこんでいる事業所である。3年前に新築された木造平屋建ての建物は、木のぬくもりが随所に感じられる。自然の光で一日中明るく広々としてリビング、器械浴で支援できる浴室、看取り介護にも備えた居室の造り、清掃が行き届き清潔な室内、その他、随所に利用者が落ち着いて暮らせる工夫が見受けられる事業所である。重度化したり終末期を迎えた利用者がおられた場合も家族、主治医、看護師などの地域関係者と連携を取り、チームで支援に取り組んでいる。最近も「ありがとう」の言葉で最期を迎えられた利用者もあり、利用者や職員の深い信頼関係と利用者第一の支援がしのばれるグループホーム「いしなり」である。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスと利用者本位の理念を作り毎朝、唱和し頭の中に理念を理解し業務に入り全員で共有している。	開設当初から地域とのつながりも十分に意識し、スタッフ全員で協議して理念を創りあげている。理念は職員が常に目につくりビングに、本年度の目標、行動目標と共に掲示しており、常に理念を意識しながら日頃の支援に臨んでいる。管理者は、適切な助言と指導を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入しており、区費を払ったり、地区の輪でのイベント参加で費用を出してもらったりしている。また地区の総会、敬老会、防災訓練、清掃活動、納涼祭等の行事に参加してもらい交流を図っている。	「この地域の住民である」という意識をもって地域と積極的に交流をしている。地域の行事案内も届いており、奉仕作業や地域の祭りにも参加している。近くの神社やお地蔵さんを職員と利用者が掃除をしていると、近くの方がお茶や紫蘇ジュースでもてなすなど、ここならではの交流もある。ホームでの納涼祭では地域の子供たちも参加して利用者と交わったり、自分たちで「綿菓子」を作って楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の参加で介護者教室、敬老会での認知症の人形劇や介護保険劇、講和を行い介護への理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回で運営推進会議を開催し、近況報告や、運営の実態、課題を話し合い、地域との関わりなどの相談も行い協力を得ている。	近況報告だけでなく、その後の意見交換も活発に行われ、有意義な会議になっている。地域の情報を得ることも多い。防災無線が設置されたり、消防団等の地域と一体になった防災のあり方を協議するなど、その後の運営に活かされている事例は多い。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との交流を念頭に地域ケア会議の参加や運営会議で講和を行ってもらっている。ふれあい祭りの敬老会式典では町長、議長、議員さんに参加して頂き連携を図っている。	地域ケア会議や運営推進委員会で、利用者や事業所の実情や課題を共有するだけでなく、管理者が行政の担当課に直接に出かけて相談することも多い。生活保護に関する件、通帳の管理、徘徊傾向のある利用者についての支援相談をするなど、行政とは、何時も連携が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の各居室には施錠はなく職員の見守り対応を徹底し利用者本位を理解する勉強会も行っている、また、外出したい利用者には付き添った介護を心がけている。	身体拘束のない支援についての意識が高く、これまで拘束の事例はない。玄関の施錠もなく利用者は自由に出入りができる。居室の窓から外に出ようとする利用者があった時も、職員が適切な安全管理に努めている。センサーマットの使用もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待法に基づいて勉強会、カンファ、研修会で学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。また入浴時には身体のアザ等の確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は勉強会や園内研修会に参加し、成年後見制度、日常生活支援事業について学び家族、関係者と話し合いを持ち、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入居前に利用契約書、重要事項説明書について説明を行い話し合いを行っている。疑問点、不安を含めて理解、納得を得て書面を渡し後日でも話しを聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々家族の面会時や各行事等で常に問いかけ気軽に話せる雰囲気を作っている。家族会時にはアンケートを取り玄関には意見箱を設置している。意見、要望等はカンファレンスにて話し合い反映している。	面会時の職員の気軽に話せる雰囲気づくりに、家族は何でも相談できると感じている。独自の家族アンケートで、外食時の食事代について家族の意見を聞いて、その意向に沿った例もある。家族会では一緒に食事をしながら率直な意見や要望を出してもらい、その後の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の疑問や意見、要望を言いやすい職場作りに努め月1回のカンファレンスにて行事等の議案討議、反省会を行ったり年2回の個人面談を行い職員の意見を聞き改善に努め反映している。個人的に困難な問題は代表者会議にて討議している。	管理者は、定例の会議や打ち合わせ時、日常職員と接する中で話しやすい環境づくりに配慮している。職員にとって厳しいと感じる指導にも、その後のフォローをきちんとしている。職員の意見や提案等は理事長にも伝え、勤務形態の改善を含む職場の環境づくりや、運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々人の勤務態度、業務の自己評価に基づく職員との面談により把握し、人事考課を行い賞与に反映させ職場の環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部評価を始め法人内でも園内研修や全体勉強会を行うとともに職場におけるトレーニングを通じて一人一人のケアの質を高めるよう勧め、長い目で見るよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協会等の研究発表会や家族発表会等の研修先にてグループトークなどに参加を行い他の事業所との交流を図っている。また、参加者には復命書の提出にて全員に共有意識を持ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、当施設の見学をして頂き、理念を説明し、必要な支援を考察し、暖かい雰囲気、安心して頂ける環境づくりに努める。理解困難な利用者には家族等より情報を聞き利用者本位の生活を提供するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、管理者、ケアマネジャーが家族との話し合いを行い、また、施設内を見学していただいている。入所当初は家族訪問をして頂き利用者の状況を理解していただくように努め納得して入所されている。面会時に随時相談を受けやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネが利用者様、家族様と話し合い、必要とする支援を共有し、音リハ、合同レク、歌の会等、法人内外のサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から日常生活の中において、教えていただくこともあり、昔話の中で漬物の漬け方など教えて頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当法人の毎月の行事である音楽リハビリや歌の会への参加に努めている。また、年に数回の利用者様全員で出かける外食やお花見、紅葉狩りなどで外の空気を味わっていただくよう支援している。お盆の帰省も実現できている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の気持ちを尊重し家族様との外出、盆、正月の外泊支援をおこない、また、地域への買い物、週2回の音楽リハビリ、合同レク、歌の会、園児との交流地区の敬老会への参加を行い馴染みの人や場所との関係が切れないように支援に努めている。	お宮への散歩、自宅近くまでのドライブ、家族の協力を得ての一時帰宅と外泊、よく行っていた店での買い物、理美容室の利用、知り合いの面会支援など、利用者の心に残っていることを考慮しての支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを把握し、食事、おやつの際に会話しやすい環境を作り、家事の分担を行い、利用者様を支え合うように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた家族様より、毎年、お米を頂いたり、時々野菜、服を持ってきてくださる。亡くなられた家族へ、昨年のお日常の様子、DVDをプレゼントしたり、良好な関係を築かせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で利用者の思いをくみ取り、何を望まれているのかを職員全員で情報共有し実行している。適宜、ご家族へご意向を確認しながら修正してご本人のご意向に沿えるケアに努めている。	担当制をとり、より深く利用者の意向や心情の把握に努めている。その情報は、全職員で共有されて利用者第一の支援に結びついている。入浴中に唄を歌う利用者がいたり、毎日の手づくりのおやつのお時間にお茶を飲みながらのおしゃべりの時間帯を設けるなど様々な工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等の情報収集や、入院時の経緯の把握を行い以前利用されていたサービス等の情報を共有し、日常生活のケアに努めている。また、帰省の際は同行し昔の暮らしぶりを傾聴している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を把握する為の申し送りの徹底を行っている。異変があれば随時、カンファレンスでケアの方向性を統一化し、評価と修正を加えながら有する残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の希望や意欲を尊重しつつ、ご家族の希望も含めて話を伺い、得られた情報をカンファレンスで話し合い情報を共有した上で介護計画への反映に努めている。また、月1回は担当者が気づきを必ず報告している。	利用者及び家族のくらしの意向に沿った計画が立てられている。サービス内容を細やかに検討したうえで、具体的で実現が可能な計画が立てられている。担当者の意見や記録にきちんと記された気づきも活かされ、まさにチーム全員で作成されたケアプランである。計画の評価や見直しも利用者の状況変化に応じて、随時、または3ヶ月毎、6ヶ月毎に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは、ケース記録や気づきノートに記入している。毎日のモニタリングの作成も行っている。修正が必要と考える場合、カンファレンスにて介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化にアンテナを張っている。どの時々に応じ、臨機応変な対応が出来る様に、職員間で情報共有を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に参加して頂ける行事を企画し積極的に参加を促している。地域の一員として安心して生活して頂ける様に日常生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院を受診する際には、ご家族の希望される病院への受診を優先している。又、受診困難な利用者には訪問診療を依頼し、スタッフや看護師による情報を共有している。上記のことを通し緊急時の体制を確保している。	本人や家族が希望する医療機関での受診である。病院受診の際は、看護師が付き添い支援している。協力医療機関として訪問診療をお願いしており、夜間対応も心配がない。受診結果については家族にも確実にその結果を伝え、スタッフと共に情報を共有している。歯科には出かけての診療を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活のケアを通じ各利用者様の健康状態の把握に努めている。小さな変化や気づき等も看護師と連携を図りながら迅速な対応が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用差様が入院された場合、適切な治療を受けれる様に、ご家族、医師と連携を図りながら、出来るだけ早期の退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期を迎えた利用者様には同意書を頂いています。ご家族、主治医、看護師を交え担当者会議を開催し、今後の方針を統一し医療との連携を図れるように努めている。	指針を基にして、入居時に利用者と家族に納得のいく説明を行い、同意を得ている。その段階ごとにケア関係者、医師、家族等と状況に応じて対応方針を共有している。看取り介護もこれまでに十数例あり、家族の泊まり込みも可能である。つい最近も「ありがとう」の言葉を残して最期を送られた利用者がある。告別式には管理者が弔辞を捧げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用差様の急変時の緊急対応として、法人の勉強会を通して「急変時の対応、心肺蘇生、人口呼吸」等の知識や技術の習得に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。地域住民の方々にも訓練に参加して頂ける様に協力を求めている。導線の確保などを全職員が熟知するよう努めている。	消防計画に基づいて、消防署の指導と近隣住民の協力を得ながら、夜間を想定した避難訓練を年に2回行っている。居室には避難ができたかが確実にわかる明りがつく器具を使用している。地域住民には、人数の確認把握をお願いしている。自然災害に対しても、ハザードマップやマニュアルがあり、地域とも話し合いを持ち、災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の個性を生かした支援を行う。排泄介助の際は本人の羞恥心を損なわない様に心掛ける。園便りや研修資料への使用の可否は、家族様の同意を得、プライバシーを尊重している。	「尊厳の尊重」「利用者本位」をケアの基盤にしており、利用者の人格を尊重し、一人ひとりの気持ちに添った支援である。言葉遣いや関わり方などの接遇について勉強会時だけでなく、その場に応じて管理者が助言や指導を行うこともある。個人情報については運営規程や重要事項説明書にも守秘義務に関する対策として謳われており、きちんと守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要求や希望を取り入れ支援を行っている。職員は和やかな雰囲気作りにも努めている。利用者とのコミュニケーションを図り、意見が出るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意見を尊重した対応している。日常生活に刺激を与える目的で、買い物同行、外食や行事参加を促し、より多くの利用者の笑顔を引き出す支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月毎の美容師訪問による散髪の実施や爪切りなど清潔に心がけている。行事等の外出の際には気分も高めて楽しんでいただくため着替えるなど、おしゃれに気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存機能を残す目的で、食事の準備や片付けなどを職員と共に行っている。利用者様は昔を思い出される様で、自らお手伝いに来てくださりやりがいに繋がっている。外出時の花見やドライブなどでは、手作り弁当を利用者様と一緒に作り、楽しみながら召し上がっていただいている。	スタッフも利用者の中に入り、それとなく見守りながら同じ食事をいただいている。利用者は自分のペースでゆっくりと食事を摂っている。食事介助が必要な利用者には声をかけながらの支援である。自家菜園で収穫した野菜が食卓にのぼることもあり、リビングのキッチンで調理される様子と共に食事への期待感を高めている。献立は管理栄養士が立て、食事前に献立についての話をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録は全職員が把握し徹底している。法人内の栄養士の献立を参考にしたり、魚、肉、卵、大豆製品、麺類で決め調理法など、その日のメニューが被らないように作成している。園内の畑で収穫した作物を使い、季節感を感じていただけるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに応じた口腔ケアを行い、義歯の洗浄支援も行っている。なるべく自力で行っていただくよう歯磨きの誘導を行っている。上手く行えない利用者様には仕上げのみを介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、定時トイレ誘導、声掛けにて、失禁、パット、紙パンツの減少に努めている。自分でトイレに行かれる方は誘導のみ行っている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣が確実に把握されている。排泄時間前にその方に合わせた声掛けをする等自立支援を目指しての支援である。布パンツに変わったり、大きいパットから小さいパットに変わった利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食には玄米を取り入れ、乳製品(ヨーグルト)や、その人に適した、きざみなどを取り入れている、フルーツや、水分補給等摂取して頂く、お薬を服薬している人もおられるが服薬しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の健康状態を確認した上で、柔軟な言葉で入浴の誘導をするように心がけている。また、入浴中は一人ひとりの個性に合わせて、歌を歌ったり話をしたりと笑顔を引き出せるよう支援をしている。	基本的には一日おきの入浴であるが、お湯の準備は何時でもでき、希望する方は毎日でも入浴できる。浴室は器械浴の設備があり、利用者も職員も入浴が楽になっている。タイルと浴槽までの高さを低くしたり、浴槽内に安全確保の仕切り板を置くなど、リスクを減らし安全に入浴ができるように工夫されている。脱衣場と浴室は冷暖房でヒートショックを防いでいる。入浴をおっくうがる方には、無理強いをせずに電話で言葉かけをするなどの工夫で、入浴に導いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレク、ドライブ、散歩など活動的に過ごして頂く。利用者様の体調や状況により、昼寝や休息をして頂く。季節に合った温度、湿度、空気清浄、寝具の調節をし入眠を促している。寝具は週一回、又、汚染時に交換し清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各人が使用している薬の目的、用法、副作用等について各職員に伝達し、またナース記録等で各職員等がその薬の内容を把握し誤薬がないように支援している。また症状の変化の確認に努めナースと医師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の生活歴や残存能力を活かした家事や畑仕事、風船バレー等のレクリエーション、誕生会、外食、歌謡ショー等の見学、参加し楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当法人の毎月の行事である音楽リハビリや歌の会への参加に努めている。また、年に数回の利用者様全員で出かける外食やお花見、紅葉狩りなどで外の空気を味わっていただくよう支援している。お盆の帰省も実現できている。家族様の都合に合わせての帰省も実施。	ホームの周辺を日常的に散歩したり、当法人での音楽リハビリやカラオケ、合同レクに参加するなど、外出の機会が多い。利用者との昔話や写真から想いを察してのお出かけもある。町内のレストランでの外食や、利用者の希望を取り入れた年間行事予定による外出は、楽しかった感情として利用者の心に残っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理できる方のみ所持している。買い物には職員が同行し、品物と金額を確認するなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望に関しては本人の希望に添えるように対応。手紙、年賀状は利用者の能力に応じて、作成、代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花や壁絵などをフロアや廊下に飾り、季節感を味わっていただくように努めている。フロアは広い窓で囲まれ外の景色や様子が一目でわかり利用者の皆様に良い刺激を与えている。過ごしやすい環境で生活していただくため空調管理にも配慮している。	朝の光から夕方まで自然の光が差し込む広々としたリビングは、窓から素晴らしい景色を眺めたり、四季の移り変わりを感じることが出来る。テーブルやソファも工夫された配置で、利用者もここで過ごす時間が多い。テーブルには季節の花が、それとなく飾られている。ウッドデッキも広々としており、ここでお茶を楽しむなど様々なことに利用できる場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの思いを尊重し、個々に合ったレクの提供に心がけている。静かに一人で過ごされたい時には離れた場所から見守るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室が確認できるように入り口に名前や顔写真を掲げている。居室には使い慣れた家具を持ち込んだり、本人が書かれた書道や以前に作られた貼り絵などを飾り、居心地の良い空間ができるよう工夫している。また、家族様の写真を置き安堵感をもっていただく。	各居室とも使い慣れたもの、長年馴染んだものが見受けられ、利用者が自分の住処として落ち着いて過ごせる居場所になっている。鏡、生け花、家族の写真、整理ダンス、趣味を楽しむ材料などいろいろなものが見受けられる。亡きご主人の位牌を置いている利用者もある。ターミナルに備えて入り口を広くとるなどの工夫が見られる居室もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ浴室等の表記や手すりを設け安全に移動できるように配慮している。浴槽は仕切り版があり身体に合わせて狭くしたりリフト椅子入浴と見守りで安全で快適な入浴が出来るよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない